

|                        |      |
|------------------------|------|
| 第 1 1 期中野区健康福祉審議会      | 資料 3 |
| 第 2 回障害部会（2026/5/26開催） |      |

令和 7 年度(2025 年度)障害福祉サービス意向調査の実施結果について

1 目的

障害者の健康福祉サービスの利用実態や今後の利用意向を把握することを目的とする。

2 調査の概要

| 調査名     | 調査対象者                                                                                        | 調査<br>標本数 | 有効回収数<br>(回収率)  |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-----------------|
| 障害者調査   | 身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持している区民及び難病等により障害福祉サービスを利用する区民。ただし、施設入所支援の利用者を除く<br>(基準日:令和7年8月1日) | 1,500人    | 682人<br>(45.5%) |
| 施設入所者調査 | 身体障害者手帳、愛の手帳を所持している障害者のうち施設入所支援を利用している中野区の給付対象者<br>(基準日:令和7年8月1日)                            | 170人      | 135人<br>(79.4%) |
| 発達支援等調査 | 0歳から18歳までの発達支援の対象児童及び身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持している児童<br>(基準日:令和7年8月1日)                     | 650人      | 355人<br>(54.6%) |

3 調査期間

令和 7 年 9 月 1 9 日～ 1 0 月 1 0 日

4 調査方法

郵送による配付、郵便回収またはウェブ回答

5 調査結果（前回調査：令和 4 年 9 月）

<前回調査結果（令和 4 年度）と比較し、変化が大きかった項目、及び特徴的な項目>

(1) 障害者調査

①住宅で困っていることの有無は、「いいえ（ない）」が 68.6%で、前回より 5.2 ポイ

ント増加した。(p.18 図 2-4)

- ②日常生活で介助を必要とすることは、「外出」が 58.3%で、前回より 5.8 ポイント増加した。(p.31 図 3-5)
- ③外出する上で妨げになっていることは、「電車やバスを使っでの移動が不便」が最も高く 48.1%で、前回より 6 ポイント増加した。(p.45 図 4-10)
- ④現在の就労形態は、「常勤の会社員、公務員、団体職員」が 46.4%で、前回より 6.1 ポイント増加した。(p.51 図 5-5) また、仕事や職場への不安や不満の有無は、「いいえ (ない)」が 60.3%で、前回より 5.6 ポイント増加した。(p.56 図 5-11)
- ⑤障害者が働くための環境整備は、「自分の障害に合った仕事があること」が 51.2%で、前回より 6.6 ポイント増加し、「職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること」が 38.9%で、前回より 5.5 ポイント増加した。(p.64 図 5-20)
- ⑥ヘルプマークの認知度は、「ヘルプマークの意味も含めて知っている」が 60.6%で、前回より 9.2 ポイント増加した。(p.86 図 6-25)
- ⑦充実して欲しい施策は、「障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援」が最も高く 44.1%で、前回より 4.1 ポイント増加した。次いで「利用できるサービスについての広報・周知 (情報提供)」が高く 38.6%で、前回より 4.1 ポイント増加した。(p.88 図 6-28)
- ⑧障害者差別解消法の認知度は、「名前は知っている」が 16.9%で、前回より 6.7 ポイント減少し、「知らない」が 70.2%で、前回より 8.2 ポイント増加した。(p.89 図 6-30)

## (2) 施設入所者調査

- ①入所理由は、「介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため」が最も高く 54.1%で、前回より 4.1 ポイント増加した。(p.107 図 2-3)
- ②今後の生活したい場所は、「現在のように、入所施設で暮らしたい」が最も高く 70.4%で、前回より 20.4 ポイント増加した。(p.110 図 3-2)

## (3) 発達支援等調査

- ①児童発達支援事業所に通う日数は、「週に 1 日」が 28.7%で、前回より 11.9 ポイント増加し、「週に 2 日」が 18.4%で、前回より 6.8 ポイント増加した。一方、「月に 2、3 日」が 22.1%で、前回より 17.2 ポイント減少した。(p.141 図 4-9)
- ②児童発達支援の希望利用日数は、「週に 1 日」が 27.9%で、前回より 1.3 ポイント増加し、「週に 2 日」が 25%で、前回より 10.5 ポイント増加した。一方、「月に 2、3 日」が 19.9%で、前回より 11.9 ポイント減少した。(p.143 図 4-12)

- ③放課後等デイサービス事業所に通う日数は、「週に1日」が28.8%で、前回より6.5ポイント減少した。「週に2日」が19.7%で、前回より4.2ポイント増加し、「週に5日」が13.6%で、前回より5.0ポイント増加した。(p.158 図4-38)
- ④放課後等デイサービスの希望利用日数は、「週に4日」が9.8%で、前回より5.5ポイント増加し、「週に5日」が24.2%で、前回より11.3ポイント増加した。一方、「週に2日」が21.2%で、前回より9.0ポイント減少した。(p.160 図4-42)
- ⑤保育所等訪問支援の利用頻度は、「3～5か月に1回」が最も高く46.8%で、次いで「半年に1回」が28.2%となっている。(p.172 図4-60)
- ⑥保育所等訪問支援の希望利用頻度は、「2、3か月に1回」が最も高く36.9%で、次いで「3～5か月に1回」が28.4%となっている。(p.178 図4-71)
- ⑦障害児に対する地域の理解は、「十分に進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合わせた＜進んでいる＞は約3割となっており、前回より8.1ポイント増加している。(p.183 図4-79)
- ⑧充実してほしい施策・サービスは、「子どもが安心して利用でき過ごせる居場所」が54.1%で最も高く、次いで「お子さんの成長に伴った就園や就学の相談」、「利用できるサービス等情報の発信」、「より専門性が高い発達等の相談」が5割台となっている。(p.184 図4-80)